

フォーラム グローバル経済と芸術 ～フランスの文化政策を通じてみる、日本の芸術文化環境～

Forum: "The Global Economy and the Performing Arts
- Japan's Performing Arts and Cultural Policies as seen through France's Cultural Policy"



左から、小田中、ヴィナヴェール氏、相馬氏、平田

2009年6月15日（土）、キャンパスポート大阪で、フランスを代表する劇作家・小説家であり、元ジレット社社長でもあるミシェル・ヴィナヴェール氏をメインゲストに迎えたフォーラム「グローバル経済と芸術 ～フランスの文化政策を通じてみる、日本の芸術文化環境～」が都市研究プラザ主催で開催された（共催：青年団／（有）アゴラ企画・こまばアゴラ劇場、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）。

まず、第一部では平田オリザ（都市研究プラザ特別研究員／大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）の基調講演が行われ、グローバリゼーションによる画一化の中で、民族性や宗教文化などの「小さな差異」を認め合う、多文化共生型のコミュニティ構築のために、芸術文化を中核にした街づくりが提言された。

第二部では、ヴィナヴェール氏、平田、小田中章浩（文学研究科教授）による鼎談、第三部では、相馬千秋氏（フェスティバル／トーキョー プログラム・ディレクター）を交えて、フランスの文化政策、日仏における舞台

芸術フェスティバルの状況を概観しつつ、これからの芸術のあるべき姿、日本の新しい文化政策システムの必要性などが話し合われた。質疑応答も行われ、80人以上集まった一般参加者の熱気の中にフォーラムは終了した。

芸術を通じたコミュニティ再生の可能性と、それに必要なシステムの必要性を提示するフォーラムとなった。

<< 岡戸香里（G-COE特別研究員）



会場の様子

This forum was held on June 15 with the principal guest being the representative French dramatist and novelist Mr. Michel Vinaver, former president of the Gillette Corporation. An appeal was presented for community building with the performing arts and culture at its core, and the forms that the performing arts should take in the future, and the necessity for new cultural policies in Japan, were also discussed.